第１３１回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２８年４月１１日提出）

１．題　目：「基礎力テスト」報告会 - 初年次と 3 年次の比較から -

２．日　時：平成 28 年 2 月 8 日（月）　15：45～17：30

３．場　所：事務局第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
　企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
　（該当するものに○を記入すること）
　[　　]（1）　教員の教育活動に関するもの
　[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
　[　○　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
　[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
　[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
　本学では，初年次生と３年次生を対象に社会人基礎力を測定する「基礎力テスト（ＰＲＯＧ）」を実施しています。このプログラムでは，今年度実施分から，初年次生と３年次生の比較分析の結果を報告します。全体傾向とともに学部毎の特徴や他大学との比較等を踏まえて，本学学生の汎用的技能（ジェネリックスキル）の状況と今後の教育課題を検討します。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】　松村直樹　氏（株式会社リアセック）

【内容】
①今年度の「基礎力テスト」から，初年次生と３年次生の比較分析の報告
②汎用的技能（ジェネリックスキル）向上のための教育事例の紹介
③自由な意見交換

９．参加者：１２名（受講証発行対象者：１２名）

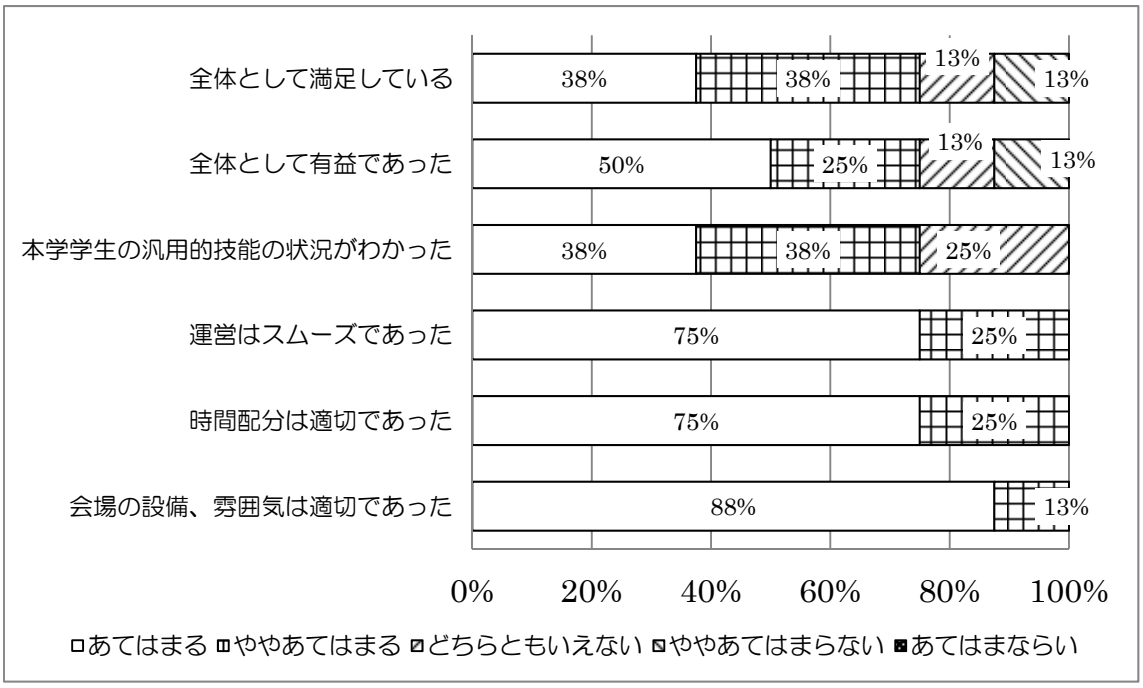
（内訳）

所　　属	人　　数
教育学部	2
医学部	1
熱帯医学・グローバルヘルス研究科	1
国際教育リエゾン機構	1
保健医療推進センター	1
大学教育イノベーションセンター	3
地域教育連携・支援センター	1
理事	1
学生支援部	1
計	12

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１）　参加者からの評価



（回答者：8 名）

● 今回参加なさって，何か感想や意見がありましたら，ぜひ率直にご記入下さい。

・ 学生全体の状況がよく分かりました。それぞれの学部の課題が見えてきているので，今後各学部で検討してほしい。大学入試内容とリテラシーの相関を説明していただければありがたいと思います。（教育職員）

・ 最も重要と思われる行動変容の資料がいただけないのが残念でした。全学部／学科について分析して結果を明らかにしていただきたいです。スコアより行動変容の方が，学生の成長を見るのに重要に思えました。データを提供できるとの話でしたが，いただけるのでしょうか？（事務職員）

・ 意見でも出ていましたが，コンピテンシーの問題例を資料として見たいです。また，モデル回答を学部毎に設定するなり，教員の意図を反映するなりした方が良いかもと思いました。モデル集団の設定と，サンプルで見たコンピテンシー問題を見る限り，特に医学部の学生は「伸びた」と言って良いのか？少し疑問に感じました。（事務職員）

・ 入試種別毎の分析にも興味があります。（教育職員）

・ 本大学の学生におけるコンピテンシー／リテラシーの各項目の評価を公聴できた。本大学の具体的な教育プログラムの前後で評価することで，プログラムの評価をしうると考えた。（教育職員）

・ 松村氏の解説はもちろん先生方のご意見を伺う時間も今回はあり勉強になりました。ありがとうございました。（教育職員）

● 内容面・運営面のいずれでも，何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さい。

・ 意義があった。もっと宣伝して人が来てくれたら良かった。（教育職員）

・ 話し合いで出ていた通り，各学部の最終的な目標達成のために，今後どのようにPROGを利用するか今後も検討が必要と思いました。（教育職員）

● 今後，FDのテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら，ご記入ください。

・ 参加者をどのように増やすか，工夫が必要と思われます。（教育職員）

・ これ（今回の結果）を利用して学生と教員が一緒の意見交換会をすれば良いと思いました。（教育職員）

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

現在の学部３年生が現在と１年生の時に実施した「基礎力測定テスト」の結果を委託先のリアセックから紹介いただき，これまでの教育の効果と今後のあり方に ついて討論を実

施した。「基礎力測定テスト」はリテラシーとコンピテンシーを企業における将来の成功の観点から見たエンプロイアビリティで判断している。 リテラシー（知識を学ぶ）は分析単位となったすべての学部，学科でこの 2 年間に上昇し，特に情報収集力，言語処理能力，非言語処理能力が上昇した。　一 方，コンピテンシー（経験を積む）は，学部によって結果が異なっていた。結果の解釈は各学部の特徴を反映した興味深いものであり，教員も「基礎力測定テス ト」の内容，思想を理解した上で，どのような知識，自信を学生に与えたいのかを考えて，今後の FD に活かすことが重要であるという認識が示された。学生生 活調査や，長大の IR との連携を強化するシステム作り，工夫が重要だと思われた。参加者は 12 名（事務等全体で 19 名）であり，もっと学部レベルでの FD にも活かされるべき内容で，できれば，学生と教員が一緒に結果を聞いて，議論できれば良いと感じた。

（熱帯医学・グローバルヘルス研究科　門司　和彦）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１３１回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２８年４月１１日提出）

１．題　目：初年次セミナーに向けてー授業設計ガイダンスー

２．日　時：平成 28 年 2 月 3 日（水）9：00～10：00（水産学部）
13：00～14：00（環境科学部）
14：30～15：30（教育学部）
平成 28 年 2 月 4 日（木）9：00～10：00（薬学部）
11：00～12：00（工学部①）
16：00～17：00（歯学部
平成 28 年 2 月 8 日（月）13：00～14：00（経済学部）
平成 28 年 2 月 10 日（水）9：30～10：15（多文化社会学部）
11：00～12：00（工学部②）
16：10～17：10（医学部保健学科）
平成 28 年 3 月 1 日（火）17：00～18：00（医学部医学科）

３．場　所：水産学部大会議室，環境科学部大会議室，教育学部 SCS 教室，薬学部ミーティング室，工学部大会議室，歯学部第 1 会議室，経済学部 11 番講義室，多文化社会学部 12 番講義室，保健学科大学院生室２，医学部第 1 講義室

４．主　催：教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：初年次セミナー担当者

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
来年度より，これまでの「教養ゼミナール」に代わって「初年次セミナー」が

スタートします。この科目では，学部基礎としてだけでなく，教養科目として全学モジュールの履修にスムーズにつながっていくような授業設計があらためて求められています。そこで本プログラムでは，「初年次セミナーガイドライン」による授業設計指針を共有し，シラバス作成の一助としていただくことをめざします。

８．プログラム構成［題目・担当講師］

【講師】　若菜啓孝　教授，山地弘起　教授，北村　史　助教，岡田大輔　助教
（大学教育イノベーションセンター）

【内容】

①「初年次セミナーガイドライン」による授業設計指針の共有
②授業で利用できるコンテンツ類の紹介
③シラバス作成に向けての意見交換

９．参加者：１６４名（受講証発行対象者：１６４名）

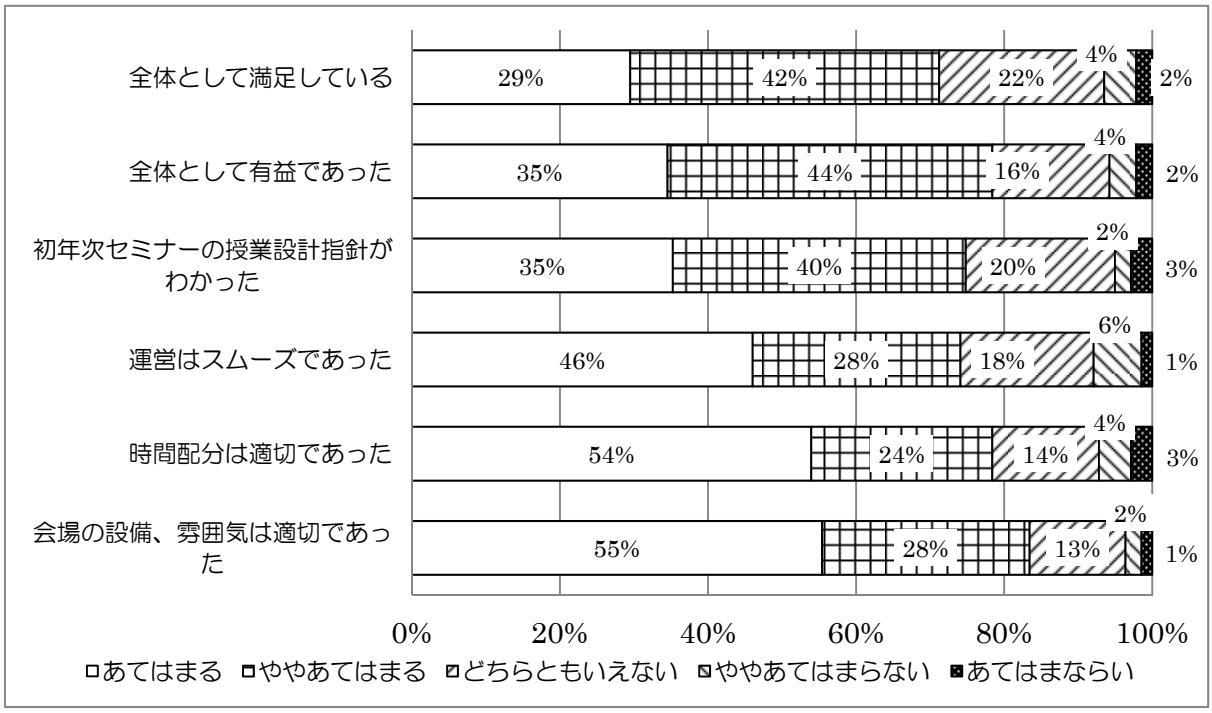
（内訳）

所　　属	人　　数
多文化社会学部	16
教育学部	11
経済学部	10
医学部医学科	4
歯学部	1
医歯薬学総合研究科（医系）	5
医歯薬学総合研究科（保系）	12
医歯薬学総合研究科（歯系）	5
医歯薬学総合研究科（薬系）	7
病院	1
工学研究科	65
水産・環境科学総合研究科（環境	17
水産・環境科学総合研究科（水産）	10
計	164

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価



（回答者：139 名）

● 今回参加なさって，何か感想や意見がありましたら，ぜひ率直にご記入下さい。

- 確かにカタカナの専門用語が多い感じがする。異なる分野の学会発表を聴いているようだった。
- もう参加しません。現実とはかけはなれている。
- 授業で行うべき内容と目的が分かってよかった。教材をアップしていただけると伺い少しほっとした。
- 判りやすいご説明でした。お忙しいなか有難うございました。
- 共通部分と個別部分の２部構成にした方がよいのでは。
- 共通 Web の存在を知ったのでよかったです。セミナー用コミュニティの充実をお願いします。
- 今後とも宜しくお願いします。
- モジュールへの導入なら，なぜ学部に投げたのか。学部内の理解がされていなかったのではない。学部からの意見を排除した結果がこれである。
- 「教養ゼミナール」（２単位）がなぜ「初年次セミナー」（1 単位）に変更になったのか，「教養ゼミナール」を総括をした上での明確な変更理由が理解できなかった。授業内容は，両者でほとんど変わっていないのではないかと思われますので。
- 全学部のシラバスは参考になりよかった。
- 初年次セミナーの導入は１年延期した方が良いと思った（準備不足の感）。
- （初年度）学生の学力状態を深く解析する必要性があるのではないでしょうか。例えばセンター試験の点数等を詳しく解析する必要性等。

- いろいろと役だつことがあった。
- 標準化ができるといいが。
- 大変勉強になりました。またFDを企画させていただきます。
- 担当経験がなく，ポートフォリオなどの意味がわからない。学力について，どの程度大変なのかわからない。なので質問応答についての問題意識が共有できない。学生の差は先生の指導の差なのか？本当に？
- ルーブリックを用いて再度説明して下さい。
- 具体的な実施内容が今ひとつよく理解できない。
- 共通化した内容を数回分ムービー各回（４５分～６０分ぐらい）にまとめていただくとよい。自動車教習所のようなもの。
- Web回答入れなかった。
- 先ずは各学部の初年次セミナーの良い点，悪い点を分析して頂いてから要望を挙げて頂いた方が良いのではないか。
  共通の内容はセンターの方で開講しては。
- 参考できるものを今後大いに参考していきたいです。
- 他学部の教養セミナーの内容など，配布資料，プレゼンテーションいずれもとても参考になりました。
- 今回の内容が何だったかわからない。もっと内容をきちっとした話をしてもらいたい。このようなことで，セミナーの授業をやればむりではないか。
- 難しい事がよくわかりました。
- 共通認識，コーディネートがとても大切ですが，どの様にして行っていくのか・・が難しいです。
- 目標設定が不明瞭。
- 個別指導の具体的な実施例を紹介して欲しい。
- 今後も情報リテラシー教育を実施していただけると大変ありがたいです。学生もこのことはちゃんと理解しているようですので，是非続けてください。
- これまで，授業については数回だけ単発の講義で行ったことがあるだけなので，「初年次セミナー」の担当になることに対しては不安な点が多いのが現状です（むしろ不安しかない）。FD中の教員方の質問にもあったように，現実的なゴールと注意点（これはしてはいけない，という点）について明示されると取り組みやすくなると感じました。
- これまでのアンケートや調査等で得ている，学生からの改善点や，教養ゼミナールへの不満などがあれば，共有してほしい。
- ラーニングティップスに興味があります。これら教材を用いて，どの教員が教えても，同じ内容・レベルの講義になるようにデザインする必要があると思います。これまでのように，各教員に完全に任せるのではなく，取り扱う教材が決まっている方が，教員にとってもやりやすいと思われます。
- ご提案のLACS上で，一括で資料などのURLがわかる，というのも助かります。
- 過去の反省点を踏まえて，よりよい初年次セミナーにしようという意気込みが感じられ，教員側でも周到に準備したうえで取り組みたいと感じました。ただ，どうしてもクリアにならないこととして，

学生への教育手法・評価基準だと思います。評価基準については，ルーブリックを用いることで，ある程度教員間の差異が埋められるのを期待できますが，どのレベル技術・スキルを教育するのかについての手法を定めなければ教員間・学部間で大きな差異が出てしまうのでは…という懸念については拭い切れないと感じました。今後，共通部分の教材やLACSの充実など，期待しております。

- 共通項目については，講義と演習，評価のコンテンツを共通にする方がいいと思います。また，評価の方法も，理解度の達成状況を測るようなものがいいのでは。
- センターから提供していただく教材や資料は教員が加工可能な形でも提供していただきたい。
- 2月前半は忙しいので，もう少し遅い時期が参加しやすいと思いました。卒論などで多忙な時期と重なります。
- 1―5回を共通化するならもう少しその具体的な話を聞きたかったです。ティップスはとても助かります。ルーブリックは，LACSに雛形としてアップしてほしいです。アレンジして使用できるように。
- テーマ設定についての具体的な内容を示して頂きたい。
- 複数名でプレゼンなどをしていることから，個々の学生の評価が甘くなりがちになる。
- 授業開始前の早い時期にＦＤがあり良かった。
- 初年次セミナーで，能動的な入門科目をしてもいいのでないかと思いました。
- 28年度に担当する教員で実施した方が良かったのでは。一度も担当していない助教ではいまいちイメージがわかなかった。
- 初年次セミナーは今後もセメスター制で行うことができるんでしょうか。専門科目を理解するためには資料収集，レポート作成（文章の構成，データ分析，グラフ作成），文章読解は最重要です。これらは専門科目の入門科目でないと言われていますが，大学教育への入門科目という意味では専門科目の入門とも考えられます。なぜ教養教育だけに限定するのかは理解できません。初年次セミナー担当者は交代するので，担当者以外でも授業設計などは登録された方がありがたいです。担当者だけでなく申請者も登録できるようにしてください。授業設計ガイダンスは一般に講義にも役立つと思います。初年次セミナー用コミュニティでの公開資料の充実をお願いします。今回の内容とはずれていますが，ポートフォリオは大学側で新入生が使えるように登録してもらいたい。現在各学部の学科内（コース内）の教員が登録する必要があり，ポートフォリオの記入開始時期がバラバラになっています。使用率を上げるためには初期登録だけは大学側で行って欲しいものです。
- 実際に授業で使われたレポート課題の事例集などを公開して活用させていただきたい。
- 初年次セミナーの趣旨や到達目標についてはおおよそ理解できましたが，実際にやってみないとわからない点は多々あると思います。ですので，初年次セミナー終了後にアンケートを採るなり，報告会を開催するなどして，教員の意識を共通化していくことが必要と思いました。
- もう少し長く意見交換の時間を確保していただければよかったと思います。今後も密な連携をお願いしたい。
- 初年次セミナーの意図はよく理解出来ました。小職も全学モジュールを担当しているので，プレゼンやレポートを少人数で指導する必要性を実感しています。実効的な初年次セミナーにするには，全教員に徹底することが重要です。一部は忠実に行い，他は今まで通り適当では，効果がありません。

ポートフォリオもそうですが，枠組みだけ作って，あとは各部局にお任せでは，ほとんど効果は無いでしょう。真面目にした人だけ労力をかけるような仕組みでは，面倒臭さや不公平感が先行して，浸透しないでしょう。また思考法やレポートについてはよいのですが，プレゼンの指導については疑問があります。プレゼンのスタイルやレベル，スキルは各教員でもかなりの開きがあります。ある程度統一的な基準を作るにしても，教員自身のレベルが低い場合は指導できるのでしょうか？よくご検討下さい。

- 初めての参加になります。イノベーションセンターが目指していることおよび，工学部教員に期待されていることは理解できたように思います。工学部も教育者と研究者の狭間で揺れ動いていることがよくわかりました。ありがとうございました。
- まだ全体像がよくわからないです。
- 大教センターの先生方はたいへんでしょうが，このようなセミナーをやって頂いたお蔭でよく理解できました。
- 長崎大学において教養教育で何を身に着けてもらうことを目的としているのかがわかりませんでした。学ぶ力をつける手法としてのスキルベースだと思うのですが，スキルを身に着けさせることが目的のように聞こえました。内容の理解ではなく，パターンマッチングで答え（のようなもの）を作成し，ハードルをクリアすることに学生は非常にたけていますので（残念ながらそれが受験勉強で身に着けた主たる物なのでは．．．かつ，それが勉強だと思っている）スキル修得が前面に出てしまわないほうがよいと思います。対案を出せるわけでもないのですが．．．
- センターと学部の協同の必要性をこれまで以上に強く認識した。
- 初年度セミナーを行う目的が理解できた。今回のセミナーの趣旨とは異なったが，会場から出た質問（現代の教育現場に蔓延する問題を指摘したこと）に，なるほどと感じさせられた。
- 仕方や方法の教授を目指すのか，形はともかく問題意識の醸成（結果として仕方や方法が必要）を目指すのか，モジュールと同じくよくわからない。
- 御説明いただいた項目が，参考なのか必須なのかがよくわからず，混乱しました。
- 学生が自発的に学習に取り組むにはテーマ（内容）が重要と思われます。しかし，どのような選択肢があるのか，自分が何をしたいのか明確になっていない学生も多数いるのが実情かと思います。このような状況で，学生にテーマ選択を強いても，あまり効果的でないように思われますし，また選ばれたテーマに教員側が十分対応できるとも限りません。このようなことを踏まえると，テーマ選定についてはもっと教員が主導することを許容してもよいのではないかと思います。なお，全体として共通化するべき部分があるとするならば，例えば授業の最後に合同の報告会を企画していただくなどの方が良いのではないでしょうか（学部によっては実施されているようですが）。なお，自身が担当した昨年度の教養ゼミは，上級生や他のゼミも含めた合同ゼミを企画して参加させましたが，学生の意欲を喚起するという点では有効であったと感じています。ただ，調整や運営についての負担が大きく，もう少し全体の支援がないものかと思われます。また実質 10 数回程度のゼミで，報告に値する内容に仕上げるのは非常に苦労した記憶があります。この点に関しては，基礎知識の理解習得について座学型授業を活用できればとの気持ちはありました。ちなみに，論文やレポートの書き方やプレゼンの

仕方などの形式的な面については，少人数で行う事は必須ではないため共通マニュアルなどを作成する，もしくは図書館セミナーのようなものを開いていただき，学生に参加してもらう方が効率的ではないかと思います。

- すでに知っていることが多い。
- 前半部分は多文化社会学部では必要なかったのではないかと思います。「共通のテキストは難しい」とのことでしたが，それではいつまでたっても全学均質な教育は難しいということになりはしないでしょうか？最低限学ぶべきことはある程度共通していると思うので，それに向けたテキスト／コンテンツの開発を目指していただければ幸いです。ちなみに，私が担当した今年度の教養ゼミナールでは，多文化共通のテキスト＋東北福祉大学のテキスト http://www.tfu.ac.jp/liaison/edu/index.html を適宜参照して，学生にも配布しつつ授業を行いました。
- 初年次セミナーの内容について，かなり突っ込んだ共通シラバス案を提示すべきかなと思いました。同じテーマで，FD を数度おこなうべきかと思いました。
- 趣旨説明が主な内容だったが，事例が欲しい。
- 工学部の場合，各コースの専門分野への意識づけ（専門の講義ではなく）も必要かと思っております。
- 教員には個性があり，その個性が大学教育の魅力の一つと思います。ほぼ同一の内容を講義して，偏りのない評価を行う，ということを個性が大きく異なる各教員に課すのは，矛盾があると思います。
- 初年次教育の重要性には，もっと大きな観点があります。高学年になって留年する学生は，すでに 1 年次前期のうちにほとんど，決まってしまいます（厳然たるデータがあります）。そのため，自覚に基づく学習態度の醸成は不可欠です。一方，4 月一か月を終えた 1 年生に意見を聞くと，「時間割がスカスカ，いったいなんでこんなに勉強の密度が低いの？」，「せっかく好きな専攻分野の勉強が始まると思って期待してたのに，，訳のわからないセミナー講義があるの？」というのが多数です。ところが，7 月になると「教養教育は適当にやればいいから楽でいい」に変わります。ここのところをまず，教員側はよく理解し，教育の戦略を考えるべきです。さて，その時に，「こうすべきだ」，「話し合って心づもりを」というような，本日，説明があったような初年次セミナーでは，学生にインパクトがなく，自覚も促せないのは明白です。冒頭に書いた 4 月の初めの「学生が熱い」内に，与えるべきメッセージは他にあります。それは何かというと，大分大学の初年次教育で大きな成果を上げている「血祭り」をすることです。何かというと，入学生にいきなり，学習生活の成功者（卒業生）10 名の例と，失敗者（留年生，退学生，就職失敗組）10 名の例を見せることです。名前や年を伏せ，履修状況や大学生活の生データを詳細に見せるのです。そして，それらの学生の教員からみた所見もコメントするのです。大分大学の初年次セミナーは，これが大きな成果を上げているそうです。そうすることによって，学生は，わが身のこととして，どう学部時代を送るべきか，真剣に考えだします。つまり，グループやクラスに流されずに，不抜の意気で，個人として，どう学部時代を生きようか，という深い考えをする機会を得て，自覚が促されます。これがいい，ああせよ，とか啓蒙書等にある美辞麗句で促すより，生データの方が圧倒的に意識を高めます。こうすると失敗するよ，こうすると有意義で，一生の宝，基盤となる 4 年間になるよ，ということを，胸をたたいて知らしめる。語るよりデータです。以上を総合すると，本学ですべき初年次教育像が見えるはず。是非，大分大学の成功

例をさらに本学なりに高めて下さい。さらに言うと，世間が長崎大学生をどう言っているか，ご存じでしょうか。先生や設備はまずますだが，周りの学生が勉強しない。だから，勉強しようと思ったら行くべき大学ではない。これが事実です。疑うなら，午前1時に，学生支援センターの近くに来てみて下さい，外部から入ってきた身なり悪い人たちと一緒に，大音響でラジカセを付けて，訳の分からない踊りに興じている学生たちがいっぱいいるんですよ。通行人がきても避けもせず。イノベーションセンターは，本当に，本学の教育をイノベーションしてください。

・ 自分が担当にならないと参加しないので，いい刺激になりました。

● 内容面・運営面のいずれでも，何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さい。

・ 学部内での共通認識をする機会がもう少しあればよかった。
・ 次回，ご開催頂けるならば，H28年度からは，11月おわりから12月辺りに開催頂ければ有り難く存じます。学部の行事等で2月～3月は多忙な方が多いようです。（卒論，修論審査，成績評価，科研費調査のまとめ，期末テストとその採点，集中講義など）
・ 評価方法が細かすぎないか。評価PCで達成度を見る様にした方がよいのでは。
・ まだ担当したことないが，体系だった教科書，コンテンツ，手引書などがあるとよい。
・ 「専門科目の入門科目ではない」とのお話ですが，学部orコースでやる上では，テーマが狭くなって専門性が高くなり，大前提がくずれはしないかと思いました！！
・ 労力の大きい作業の自動化，もしくは，自由度をみとめる。
・ 終了時間は厳取されたし。
・ センターでなにをするのか，もっときちっと決めるような有益な仕事をしてもらいたい。
・ 結局，学部まかせのように思う。
・ 大学全体でコンセンサスが得られていないところがあるというお話や，教員によって善し悪しがあるというお話がありました。これまでは事例集などでも「よい例」しか挙げられていません。私は逆に「よくない例」，「こういう指導は避けて欲しい」というような例を挙げていただいた方がよほど有用かと思います。
・ 講義の学生アンケートは，WEB上でできるようになることを希望します。また，シラバスの参考になるような共通シラバス案，あるいは「優れていると思われるシラバス案」を提示していただけることを希望します。その場合，シラバスの中に，活用可能，活用を推奨する教材のURLもいれていただけると助かります。
・ 参考になりました。
・ 資料はA4で統一してほしい。
・ 試験期間なので仕方ないですが，会議室ではなくて，講義室の方が良かった。
・ あまりマニュアル化すると，結局受動的な教育になってしまわないでしょうか。
・ 効率的な運用に重点を置いた説明会が行われることを期待しています。

- ノートPCを使えませんでした。
- どういったものか事前に連絡してもらえるとありがたいです。
- 今回，パソコンを持参するように頼まれていたが，講演者のパソコンによる実演だけで足りる内容だと感じた。
- 多文化社会学部のようにきちんと教養ゼミナールを行っている学部に対して，こういうFDは不要なのではないか。
- イノベーションセンターの先生方のお話を伺っていていつも思うのですが，学部（＋教員）によって教養教育に対する意識がかなり違うようですので，意識が低い学部にはしつこく，そうでない学部にはさらっとFDをしていただけると有り難いです（難しいでしょうけれども）。
- 内容は適切，運用も円滑であった。
- 具体的な事例を示していただけなかったので，次回類似の企画をされる際は，そのようにお願いします。
- 前年度他大学で，こうした初年次教育を行った経験から意見します。このようなガイダンス的な内容は，そもそも単位修得する科目としてなじまないと考えます。セミナー自体を学生が主体的に体験できるガイダンスにするべきと考えます。前大学では，学部を問わず学生を混成させたクラスにしていましたが，こちらでは学部は統一されているとお聞きしました。この点は，評価できます。
- 医歯薬での細かい検討の必要性を痛感した。具体的な事例の紹介をして欲しい。

● 今後，FDのテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら，ご記入ください。

- 担当教員が毎年変わるので，毎年FDを実施して欲しい。
- 以前出席した「学生による授業改善」のFDはよかった。生の声が聴けた。ただし，それが改善につながっていないと感じた。
- より具体的なFDを希望する。
- Tipsを視聴し活用するFD。
- テーマについては，コース（学科）の専門に近くなるのはしかたないと思います。
- これらFDの根底にある思想的なものについての科学的な実証。初めて担当する教員が学生の立場での模擬授業。
- モジュルール科目にしてよかったかどうかの検証をお願いします。
- 担当教員が毎年変わるので，新たに担当する教員に対して毎年FDを行って欲しい。
- 教える教員の方が，少人数セミナーの経験があまりなく，具体的な授業設計例や，評価の仕方があればもっと参考になった。
- FD受講証を発行してほしい。
- 本年4月からの鎮西学院の教育顧問のような著名人の考えも聞ければと思います。
- 初年次セミナーの具体的な構成を協議しながら授業設計を行うことをFDとして実施できないでしょうか。
- 学部やコースの要望を確認いただく機会を設けていただければと思います。直接関係ありませんが，

特にLACSやNU-webなどの大学全体のシステムのようなものを設計されるときは，特に実際に使用する教員の要望を直接聞き取ったり，システム運用開始後は，改善のための意見を上げることができたりする仕組みとしていただければと思います。

・　３学部の学生の混成グループであるため，今回のFDは当然必要ですが，さらに３学部の担当教員合同のFDも必要ではないかと感じました。

（２）総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

今回のFDは，従来の教養ゼミナール（２単位）から初年次セミナー（１単位）に変更されることによる，ガイドライン変更の周知と授業設計に関するものであり，各部局において複数回開催した。１６０名を超える参加者があり，研修中に多くの意見交換もなされた。その際には，部局間で考え方の違いなども把握でき，今後の初年次セミナーのあり方に対して様々なご意見などを頂戴した。H28年度以降の授業展開に必要なコンテンツや資料等作成においても参考となり有益なFDであった。

（大学教育イノベーションセンター　若菜　啓孝）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線2077

第１３１回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２８年４月１１日提出）

１．題　目：モジュールⅡ前期科目の実施に向けて
　　－「考える力」を育てるアクティブ･ラーニング－

２．日　時：平成 28 年 2 月 29 日（月）9:30～12:30，3 月 1 日（火）9:30～12:30
　　3 月 3 日（木）9:30～12:30，3 月 4 日（金）9:30～12:30
　　3 月 11 日（金）14:00～17:00，3 月 16 日（水）13:00～14:30

３．場　所：教養教育棟 A-12 （文教キャンパス）
　　良順会館専斎ホール，歯学部小会議室（坂本キャンパス）

４．主　催：教務委員会
　企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 平成 28 年度前期モジュールⅡ担当者

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
　（該当するものに○を記入すること）
　［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
　［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
　［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
　［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
　［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
　　第４クールの全学モジュールから，「考える力」の向上をめざして更なるアクティブ･ラーニングの充実が求められています。そこでこのプログラムでは，実際にアクティブ･ラーニング例を教員側･学生側で体験してみながら，「考える力」を伸ばす授業の工夫を検討し合い，前期授業に活かしていただくことをめざします。
モジュールⅡ前期科目の科目責任者の方はぜひご参加ください。

８．プログラム構成［題目・担当講師］

【講師】　山地弘起　教授，若菜啓孝　教授，岡田大輔　助教，北村　史　助教
（大学教育イノベーションセンター）

【内容】

①「考える力」に焦点をおく授業設計指針の共有

②「考える力」を伸ばすアクティブ･ラーニングの体験

③授業実施に向けての意見交換

９．参加者：４０名（受講証発行対象者：４０名）

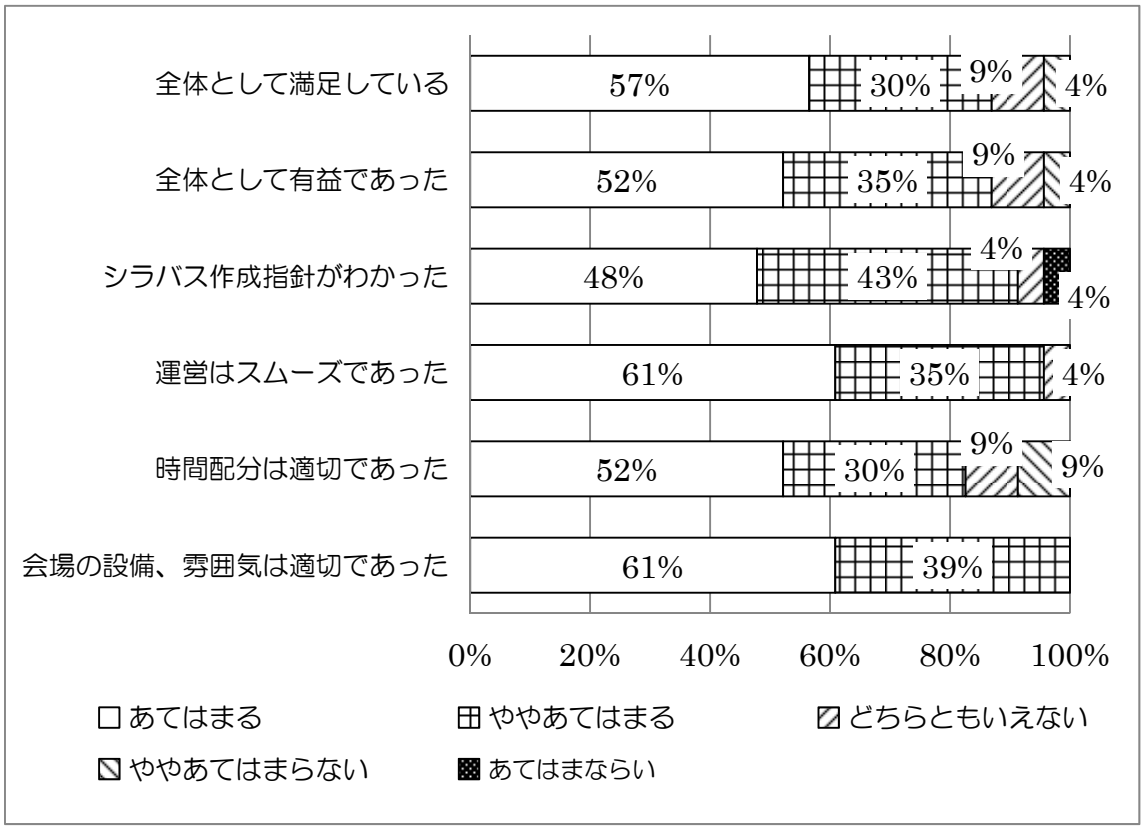
（内訳）

所　　属	人　数
教育学部	7
医学部	1
多文化社会学部	2
工学研究科	3
水産・環境科学総合研究科（水）	1
水産・環境科学総合研究科（環）	5
医歯薬学総合研究科（医）	4
医歯薬学総合研究科（歯）	4
医歯薬学総合研究科（保）	3
医歯薬学総合研究科（薬）	4
産学連携戦略本部	1
国際教育リエゾン機構	1
核兵器廃絶研究センター	1
言語教育研究センター	1
病院	2
計	40

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価



（回答者：8 名）

● 今回参加なさって，何か感想や意見がありましたら，ぜひ率直にご記入下さい。

・ 指導は良かったし，興味深かったです。

・ 授業への適用をすることを考えると，アクティブラーニングを行う科目と知識を増やすための科目とをそれぞれ準備委したほうが良いように思いました。すべての授業をアクティブラーニングのようなやり方で講義を進めることは無理があるように思えます。

・ Debate は久しぶりで面白かった。改めて自分の論理構成能力が低いと感じた。今後の授業に期待したい。

・ 実際に学生の立場たてたこと，なにを目標にしているのかがわかってよかった。

・ シラバス作成前にＦＤをしてくださっていれば，これを加味したシラバスを作ったのにと思います。

・ ディベートは初めてで，要領がよくわからず，難しかった。

・ 自分が受けてきた教育との違いに驚いているところです。

・ はじめてディベートを体験しました．今後の授業に役立つと思います。

- モジールⅠとⅡの差がわからない。モジュールⅠでも試してもよいと思った。
- ディベートを自分のシミュレーションの授業にも使えると分かったのでよかった。
- ディベートが適用できる分野とそうでないところについては，対案や考え方が説明されるとよかったのでは，と思う。
- ディーベートを実際に実施する際のノウハウの習得は場数が重要と思うが，実施例のビデオなどがあると良いと思う。なかなか難しい学生が多いと思う。
- 最初からディベートに専念すべきであったと思います。2回すればもっとディベートを理解できた。
- 学ぶところは多かったと思います。特に今後クォーター制が導入される際に，どう時間配分をし，授業に組み込んでゆくかが課題だと思います。
- いい勉強になりました。
- 大変ためになりました。
- 勉強になりました。ありがとうございました。
- ありがとうございました。お礼申し上げます。
- 非常に有益です，ぜひ，次回も参加したいと　思います。
- 今回は特にディベートの進め方で学ぶ点が多かったのは収穫でした。ただ歴史系は事象の結果が変えられないのでディベートには向かない面があるので，今日学んだことがすぐに生かせないのが残念な気がする。他方，山地先生にお話をしましたが，国際バカロレアのケンブリッジ大出版局の歴史テキストブックは最近読んで有益でした。近い将来の大学入試制度改革をにらんで一部を読みましたが，歴史の授業でのプレゼンの仕方の具体例が載っており，これは今後の教養教育の中で取り入れることができればいいなと思っているところです。国際バカロレアの提唱する"Theory of Knowledge"は，高校レベルとはいえ大学進学希望者への教育の話なので非常に参考になるので，本学でも教員の間で情報共有した方がよいと思います。
- 実際の学生と類似した姿勢で経験できたので授業に向けてイメージができた。
- いい勉強になりました。
- 体験的に理解できたことがよかった。すぐにつかえるアイディアもいただき感謝しています。ありがとうございました。
- 準備不足でしたが，わかりやすく，ご指導いただけました。
- 授業で使える資料は欲しいと思います。
- 今回も大変勉強になりました。
- 実際にやって，やり方がわかった。
- 大変勉強になりました。学生へのフィードバックを本年度は頑張ります。
- 今後の授業の参考にさせていただきます。

● 内容面・運営面のいずれでも，何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さ

い。
・　課題はまだたくさん残る気がします。
・　後期向けも早めにやっていただけたら。
・　時間が短かったので不十分でした。
・　非常に短時間で密度濃いものでした。
・　じっくり考え人前で話すのが苦手な学生にはどう対応すべきでしょうか？
・　ココアが欲しかった。コーヒーは美味しかったです。
・　ディベートの時間をもっと時間をかけて欲しかった。
・　今後とも少人数でお願いしたいと思います。
・　９０分間でできませんかね？
（以上すべて教育職員）

● 今後，FD のテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら，ご記入ください。
・　アクティブラーニング
・　新しい試みのものはまた紹介いただきたいと思います。
・　クォーター制での具体的な時間配分と教案の作成。
・　良い事例を見せていただきたいと思います。
・　私自身，どうしても FD にかける時間が少なく，どうしたら教育機能を研鑽できるか常に心がけております。
・　「批判的思考力」という言葉は日本語表記では誤解を生みやすい言葉です。本来は，あなたの意見の根拠はどれくらい信頼性があって本当にそれに基づいて判断を下してよいですか，というまさに判断のクリティカル（分かれ目的）な側面を指すものだと私は理解しています。平たく言えば，論拠の正当性を問う，ということです。これを医学，工学，経済学，教養教育など様々な領域においてどのような根拠・論拠の考察が求められるかをきちんと教員間で共有する必要があると思います。それは"Theory of Knowledge"に関わることでもあります。そういう問題を考える FD が必要かな，と思っています。
・　ジグソー法
（以上すべて教育職員）

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

本 FD では，モジュールⅡの前期科目担当者を対象に，「批判的に考える力」の向上に向けた授業設計指針を紹介し，具体的にワークシートに沿ってアクティブラーニングを体験していただいた。こうした体験型の研修機会は最近余り提供できていなかったた

めか，総じて参加者の満足度は高く，シラバス作成段階からこうした具体的な教授法のFDを行い，授業設計に関する助言および意見交換を行うことが望まれる。

一方，今回はテーマ責任者を通して日程調整を行った上で7回のFDを実施したが，一人以上の科目責任者が参加したのは全49モジュールのうち24のモジュールであり，約半数のモジュールからは参加がなかった。第4クール以降の全学モジュールの趣旨が十分周知されていないと思われるため，参加のなかったモジュールについては，修了クイズ付きの簡単な動画コンテンツなどで情報を共有する方法を探りたい。

（大学教育イノベーションセンター　山地　弘起）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線2077

第１３１回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２８年４月１１日提出）

１．題　目：モジュール・フォーラムー全学モジュール科目の総括ー

２．日　時：平成 28 年 3 月 8 日（月）　10：15～12：00

３．場　所：事務局第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
　企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
　（該当するものに○を記入すること）
　［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
　［　○　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
　［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
　［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
　［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
　このプログラムでは，今年度のモジュールⅠおよび後期モジュールⅡの科目責任者への総括アンケートと学生による授業評価のそれぞれの結果を報告します。これらを踏まえて，参加者の方々とともに全学モジュールの現況と課題を整理し，今後の改善方向を検討します。
全学モジュールほか本学の教養教育に関わっておられる方はぜひご参加ください。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】　松坂誠應 理事（教学担当）
　　川越明日香　助教（大学教育イノベーションセンター）

【内容】
①全学モジュール科目の総括アンケートの結果報告と意見交換
②学生による授業評価の結果報告と意見交換

③制度面・実践面での改善方向の検討

９．参加者：８名

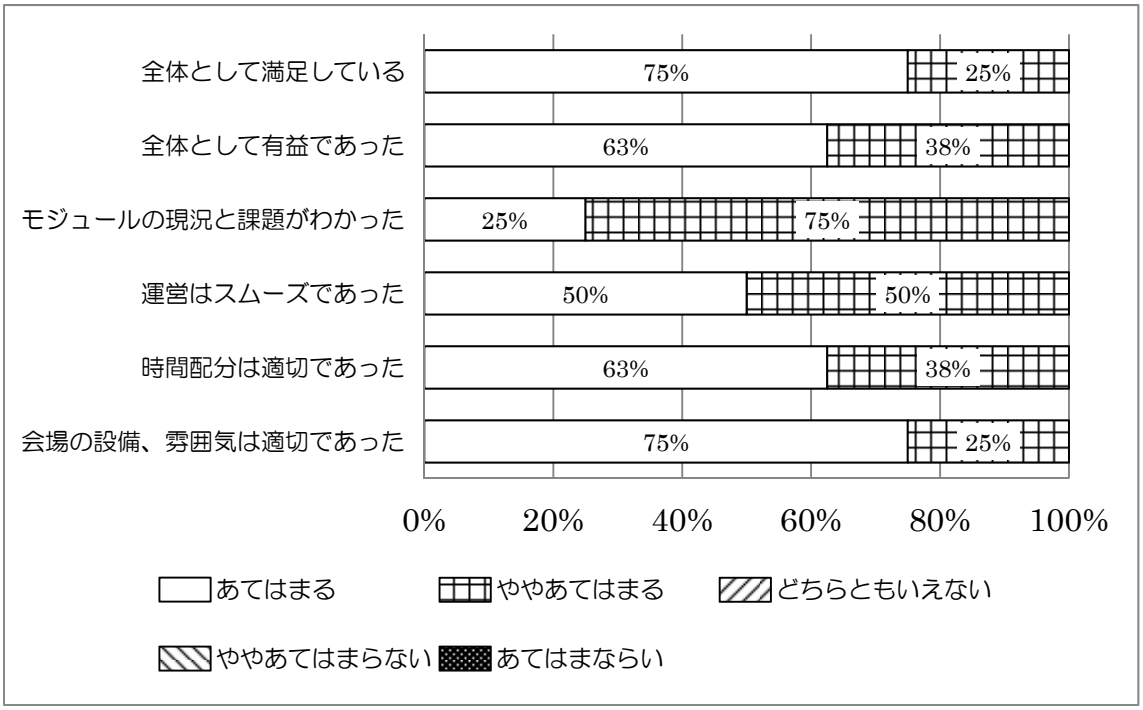
（内訳）

所　　属	人　　数
教育学部	1
医学部	1
薬学部	1
環境科学部	1
工学研究科	1
大学教育イノベーションセンター	3
計	8

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１）　参加者からの評価



（回答者：８名）

● 今回参加なさって，何か感想や意見がありましたら，ぜひ率直にご記入下さい。

・ プログの調査結果を対比してどうなのか，次回取り上げてお話しください。資料作成を含めてご苦労様でした。（教育職員）

・ モジュール科目の意義と問題点が理解できた。

● 内容面・運営面のいずれでも，何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さい。

・ 学生の意欲をどのように喚起させるのかとても重要だと思っています。主体的に参加させていくためにもアクティブラーニングはこれから大きな役割を果たすものだと思っています。（教育職員）

・ 今回は，学生の自己評価（授業評価）に基づき，社会人基礎力や，授業の改善を評価・分析していましたが，何を指標に評価するかは難しいと思いました。（教育職員）

・ 全体的に，大変参考になる分析・報告内容でした。ありがとうございました。
松坂先生の自学時間とその他項目の分析は，教学 IR 部門でも個票単位で相関分析を行おうと考えていましたので，非常に参考になります。自学時間が短くとも評価が高い科目についてのご説明がありましたが，自学時間が短く，満足度が低い科目も（公表は避けるべきであっても）分析する必要があると思いましたので，教学 IR でも引き続き分析をしていきたいと思います。川越先生がご報告された，「学生による教育改善のための協議会の調査」結果は，過去分も含めて公開されているのでしょうか。（過去の学生生活調査の自由記述欄（非公開）に，「アンケートに回答しても改善されているようには思えない」というコメントがありましたので，気になりました）

● 今後，FD のテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら，ご記入ください。

・ 内容の概略だけではなく，ある程度具体的なトピックスも事前にお知らせしておくと，もう少し参加が増えるかもしれない，と先生方のコメントをお聞きしながら感じました。（教育職員）

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

参加者数８名とやや少なかったが，全学モジュール科目の担当者と，科目を受講した学生からのアンケート調査の分析結果をご説明いただくとともに，全学モジュール科目に関する問題点の一部を明確にすることができて大変有意義であった。必修として開講される全学モジュール学生Ｉでは，特に学生のヤル気を起こさせるためにも「授業の全体像を意識させ，ゴールを明示し，成長した姿を想像させる」ことが重要である。一方で学生が学びたいと感じている教養科目と，教員が学ばせたいと考えている教養科目には乖離があり，社会人基礎力の増強だけを考えた教養教育で果たしてこれからも大丈夫なのかと考えさせられた。社会人基礎力の向上は，必ずしもペーパーテストの結果と対応しないことも明らかになってきた。また，社会人基礎力が学生に身についたかを測定する方法についても今後の議論が必要である。FD 後のアンケート調査によれば，65%を超える出席者が内容について満足している一方で，モジュールの現状と課題が分かったとした意見は 25%程度であり，今後はモジュールとして開講されている個別の科目についても現状と課題を掘り下げていく必要があると感じられた。

（工学研究科　才本　明秀）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１３１回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２８年４月１１日提出）

１．題　目：アクティブ・ラーニング事例報告－全学モジュール後期科目より－

２．日　時：平成 28 年 3 月 8 日（月）　13：00～15：00

３．場　所：事務局第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
　企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
　（該当するものに○を記入すること）
　［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
　［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
　［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
　［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
　［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
　　全学モジュール科目では，アクティブ・ラーニングを積極的に導入する試みが続けられています。この事例報告では，今年度後期の科目担当者から授業経験を紹介していただきます。苦労した点・失敗した点も含めて，互いにざっくばらんに実践交流を行うことで，来年度の授業に向けて工夫を考え合うとともに，教室環境や制度的背景等についても改善提案を出していただければと願っています。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】　事例報告者：
　　奥田 阿子　助教（言語教育研究センター）
　　久保 隆　助教（産学官連携戦略本部）
　　嶋野 武志　教授（産学官連携戦略本部）
　　宮下 茂　教授（教育学部）

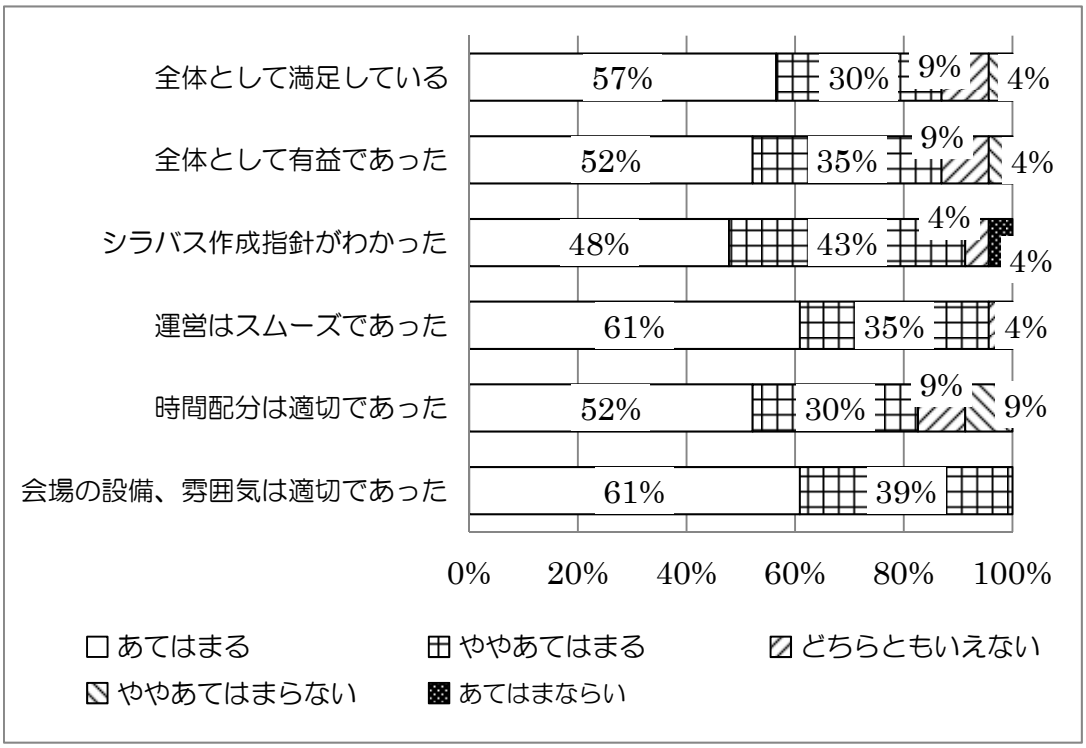
【内容】
①全学モジュール後期科目からの事例報告
②事例報告を受けての自由な意見交換

９．参加者：１２名（受講証発行対象者：１１名 ※途中参加１名を除く）
（内訳）

所　　属	人　数
多文化社会学部	2
教育学部	2
医学部	1
医歯薬学総合研究科（保系）	1
医歯薬学総合研究科（歯系）	1
産学官連携戦略本部	2
国際教育リエゾン機構	1
言語教育研究センター	2
計	12

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等
（１） 参加者からの評価



（回答者：8名）

● 今回参加なさって，何か感想や意見がありましたら，ぜひ率直にご記入下さい。
・ いろんな意見が聞けてよかったです。（教育職員）
・ 参考になった。（教育職員）
・ 宮下先生の授業を見学してみたいと思いました。（教育職員）
・ 勉強になりました。（教育職員）

● 内容面・運営面のいずれでも，何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さい。
・ 山地先生の進行が良かったです。（教育職員）

● 今後，FDのテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら，ご記入ください。
・ PPTの作り方。（教育職員）
・ もっと多くの人が参加すると良いのですが，開催時間が問題でしょうか。（教育職員）

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

本FDは，全学モジュール科目で積極的に導入されている，アクティブ・ラーニングの方法を学ぶために，実際に学生評価の高い，あるいは評価の伸びている教員 4 名から，実際に行っている講義の方法や工夫に関し紹介して頂いた。それぞれの講師が工夫している点に関しては，共通している部分と特徴的な部分があり興味深いものであった。プレゼンテーション後のディスカッションでは，特に，学生の関心の集め方，学習へのモチベーションの上げ方の工夫について活発な意見交換がなされた。

参加者からの評価として，満足度に関して「あてはまる」（57%）と「ややあてはまる」（30%）であり，概ね満足のいく FD であったことが確認された。有益度に関しては「あてはまる」（52%）と「ややあてはまる」（37%）であり，これも概ね有益な FD であったことが確認された。

（医歯薬学総合研究科　朝比奈　泉）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１３１回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２８年４月１１日提出）

１．題　目：プレゼンテーション･クリニックーより効果的な資料作りのためにー

２．日　時：平成 28 年 3 月 22 日（火）　16：00～17：30

３．場　所：教養教育棟 A－12 講義室

４．主　催：教務委員会
　企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
　（該当するものに○を記入すること）
　［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
　［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
　［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
　［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
　［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
　　こ　学会発表や普段の授業などで，自分の情報伝達がうまくいっていないと感じることや，スライド資料をもっと良くしたいと思うことがありませんか？このプログラムは，より効果的な情報伝達に向けて，各参加者のニーズに応じたブラッシュアップの機会を提供するものです。スライド作成や話し方の留意点だけでなく，ハンドアウトやワークシートなどの作り方も含めて，総合的にお手伝いします。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】　北村　史　助教，岡田大輔　助教
　　（大学教育イノベーションセンター）
【内容】
①プレゼンテーションの留意点の解説
②情報伝達を助ける道具立ての解説
③各参加者の課題に応じた個別支援（実習）

９．参加者：21 名（受講証発行対象者：学生を除く 20 名）

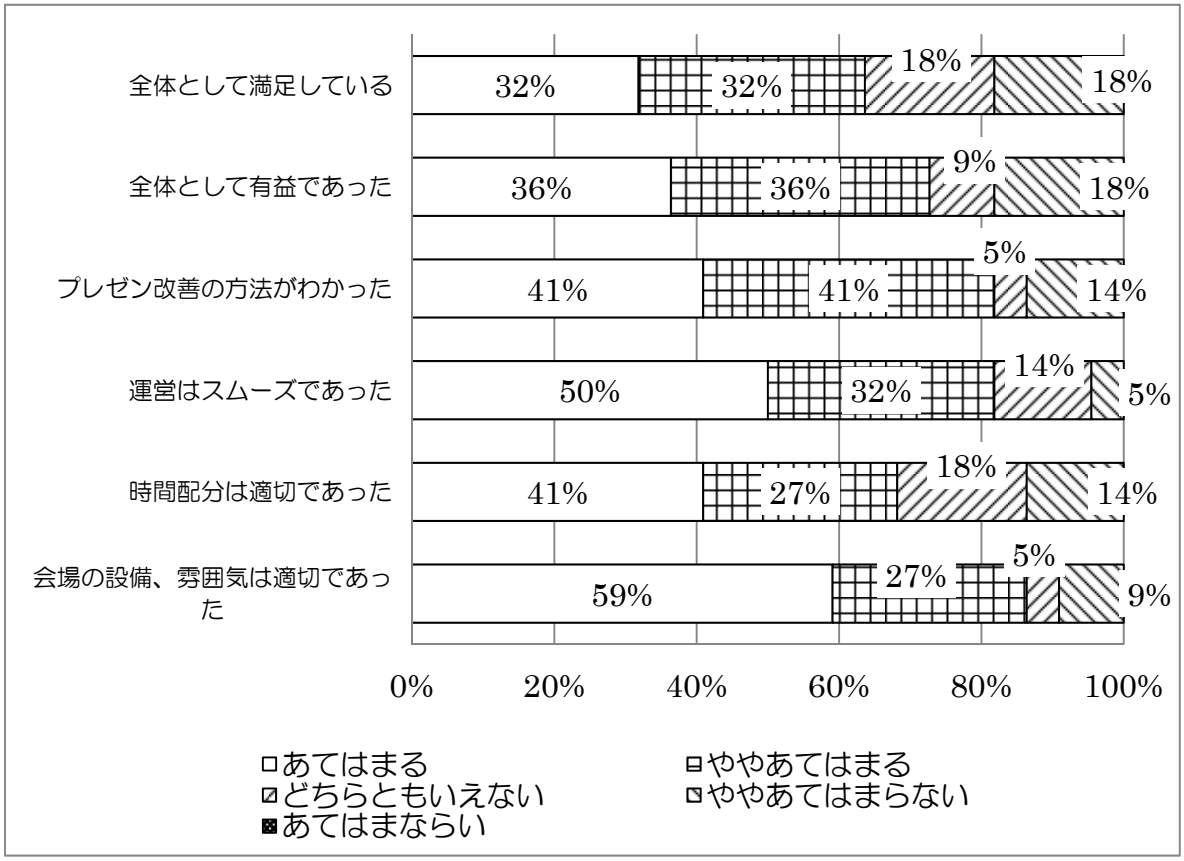
（内訳）

所　　属	人　　数
教育学部	3
経済学部	1
医学部	1
環境科学部	1
歯学部	1
工学部・工学研究科	2
水産学部	1
多文化社会学部	1
国際リエゾン機構	3
熱帯医学研究所	1
原爆後障害医療研究所	1
言語教育研究センター	1
地域教育連携・支援センター	2
附属中学校	1
学生	1
計	21

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価



（回答数：22）

●今回参加なさって，何か感想や意見がありましたら，ぜひ率直にご記入下さい。

- プレゼン資料は，なんとなく疑問に感じながら自分のこれまでのやり方を繰り返していたが，今回のＦＤで，もう一度見直してみようと思う機会をいただいた。フォントや配色など，どれひとつとっても大きく印象が変わるということを実感させていただきありがとうございました。
- 概要にはハンドアウトなどの話もあったが実際は口頭発表用だけであった.・キーノートのユーザーにも配慮があってもよいと思った。
- 質疑応答時のさいのテクニカルな話がもっと知りたかった。
- 非常に実践的な内容で分かりやすく，さっそく次のプレゼンから取り入れてみたいと思いました。
- 悪いスライドなどの具体的な例を提示し，良いスライドにするためにどのように変えていくのかを提示するとより分かりやすいと感じました。
- 具体的なプレゼン資料の提示があれば，もっと良かったのかもしれません。
- もう少し高度な技法・テクニックを学べると思っていたので，基本的な内容に終始していたので少し残念だった。事前のアナウンスからはワークショップの内容まで知る

ことができなかった。それでも丁寧に解説しただき感謝です。

- 2 回目，3 回目（エキスパートコースなど）を企画があると良い。
- 配色の選び方，フォントで印象が変わる事，とてもためになりました。今後の研究発表のスライド作り改善に役立てたいと思います。
- 今までしらなかったことが多くあり，参加してよかったと思いました。時に配色のことは，ビビット，トーンばかりをつかっていましたから驚きでした。ありがとうございました。
- スライド持参で実践的な内容で勉強になりました。北村先生ご自身も見本としてわかりやすかったです。ありがとうございました。
- プレゼンの比，相手（聞き手）との「対話」，スライドに載せる情報量や色彩の問題は，情報モジュールでも習ったことがなかったので分かりやすかったです。（学生）
- 他の先生方がどんな PPT を作るのか見てみたかった。おそらく，若い先生は知っていて実践している内容だったかなと思う。
- デザイン系に重点が置かれすぎていたような気がします。
- 悪い例を実際に修正してよくするような実例があるともっと分かりやすかったかなと思います。よいパワポの例ももっと見たいです。企業とか。

●内容面･運営面のいずれでも，何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さい。

- ターゲット別にした方がよい。
- 個別の初歩的な質問に対する解説に時間が割かれすぎていた印象。Ⅳとも関連するが，事前にどの程度のレベルを対象にされているのかが分かっていれば捉え方が違ったと思う。
- FD-SD の中で到達目標がどのようになっているか，案内の時点で具体的にお知らせ頂くと，目的達成とのズレが少なくなるように思いました。
- 特になし，いつもありがとうございます。
- 話し方や他の visual AIDS についても何かあればよかった。
- 第２弾，３弾もやって下さい。

●今後，FD のテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら，ご記入ください。

- 魅力的なテーマのＦＤでした。今回が入門編としたら応用編も実施していただきたいです。北村先生の穏やかな雰囲気が質問の出やすい雰囲気を作っていただいていたように思いました。そういったことも勉強になりました。ありがとうございました。
- 事前の案内文（メール）でワークショップの内容をもう少し詳しく紹介していただきたい。例えば，興味ある人はこちらへとして関心のある人だけ誘導してもらうとか。よろしくお願いします。北村先生・皆様ありがとうございました。

・　スライドでなく，話し方（伝え方）についてもスキル向上が必要と思います。
・　長大は中堅が少なく，ベテランと若手が多い印象がある。ベテランが大量に退職する前に，学部の歴史や課題，大切にしてきたことなどを伝承する場があると有難いです。
・コミュニケーション・プレゼンの話し方など　（学生）
・　パワーポイントの作り方の FD をお願いします。
・　前もって，達成目標が分かれば，そのレベルにあった人が来られると思いました。

（２）総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

今回のプログラムは，教職員の情報発信・伝達力の向上のため，各参加者の実際のニーズに応じたブラッシュアップの機会を提供する目的で企画された。アンケート調査結果によると，この目的はおおむね達成できたと思われる。プログラムの前半では，より効果的な情報伝達に向けて，スライド作成や話し方の留意点，ハンドアウトやワークシートなどの作り方が紹介され，後半ではさらにフロアーから質問を受ける形で，各参加者が教育現場で感じている課題点に対し解決策が提案された。自由記述によると，参加者のレベルに差があったため，内容の満足度に差があったことがわかる。今後は，対象レベルを分け，初級から上級コースを提供することも考えられる。

（言語教育研究センター　劉　卿美）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077